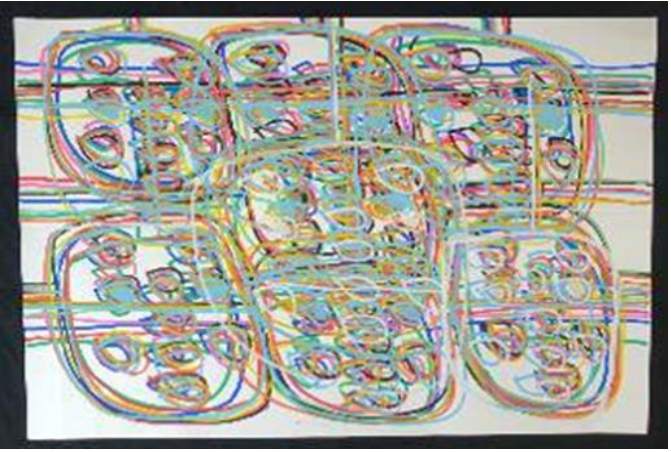
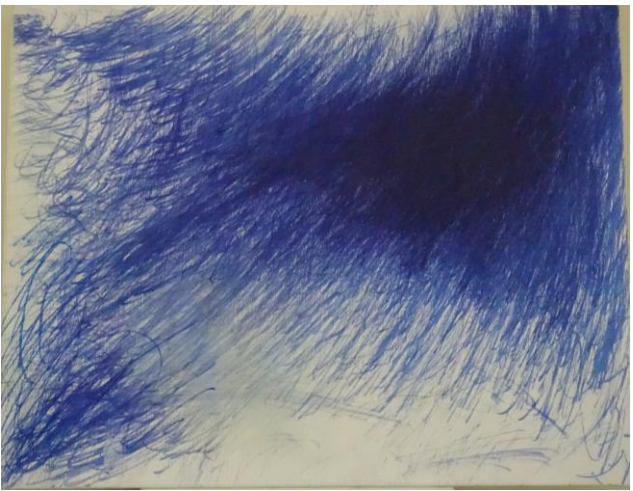
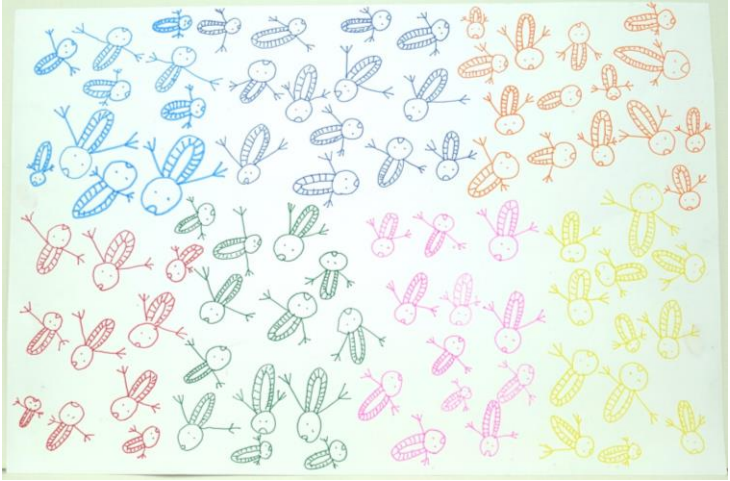
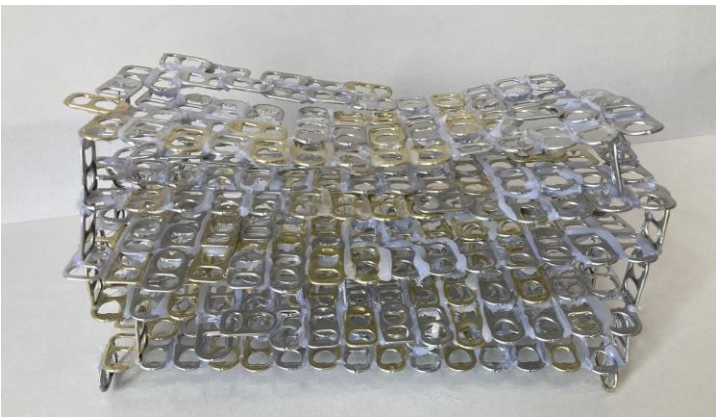


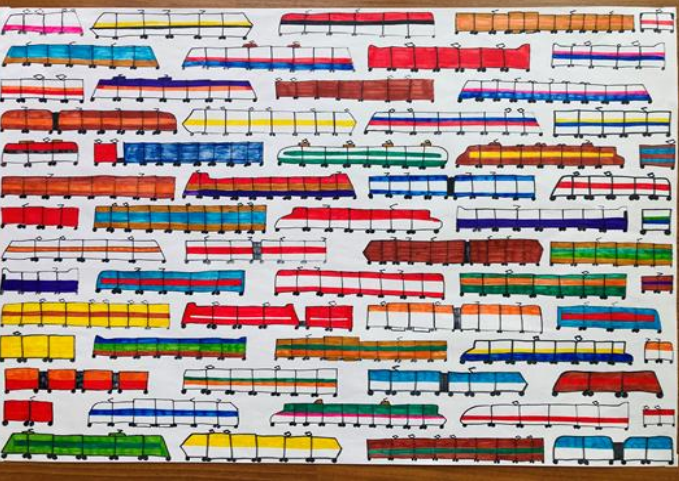
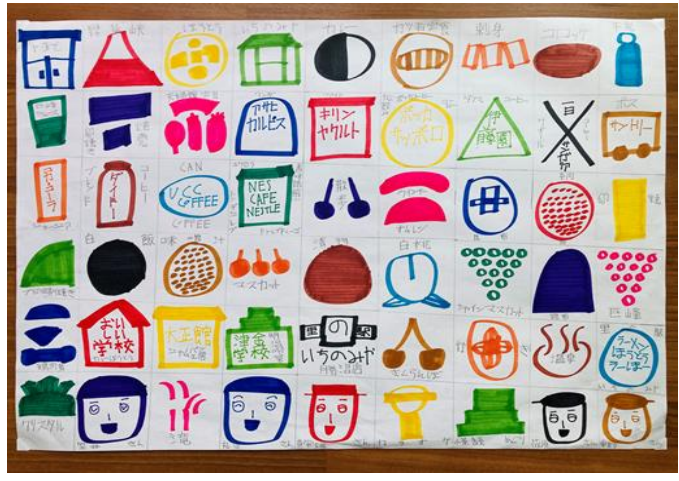
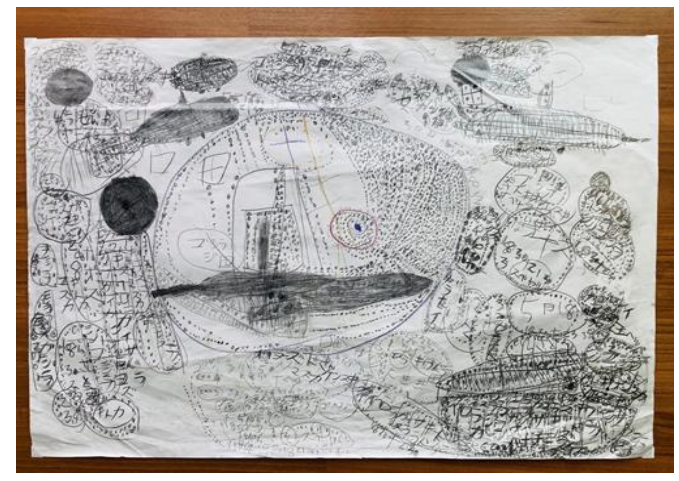
埼玉県障害者アート利活用 作品リスト(所属施設名の五十音順)

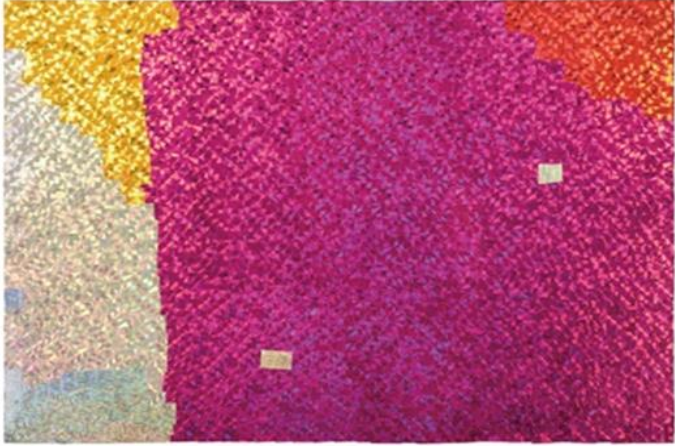
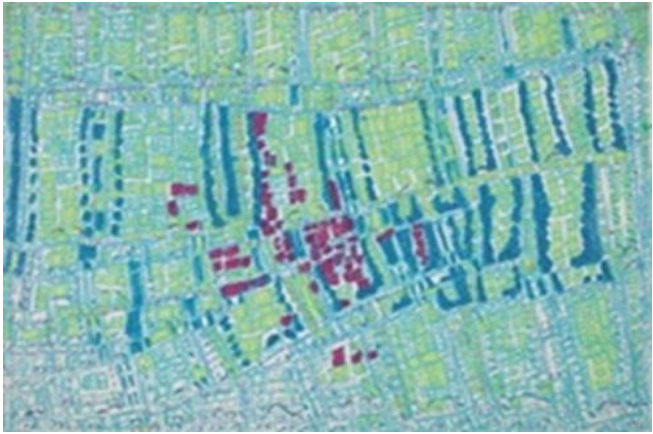
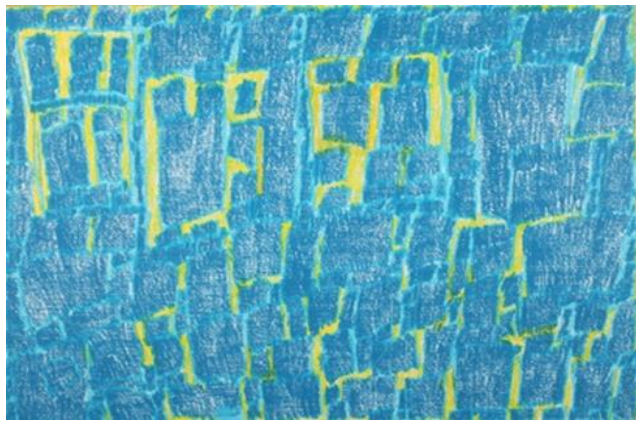
埼玉県障害者福祉推進課 2025.3末時点

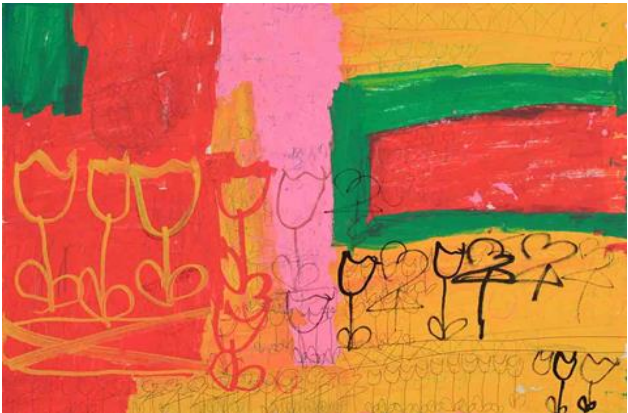
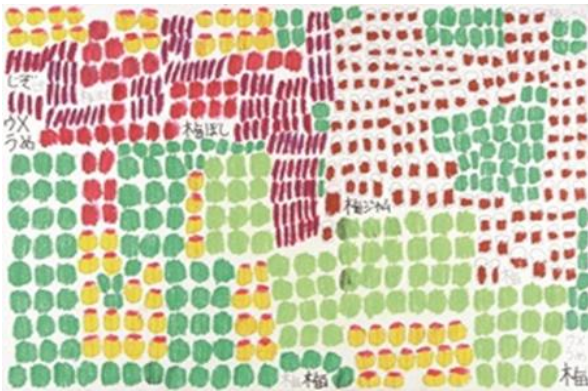
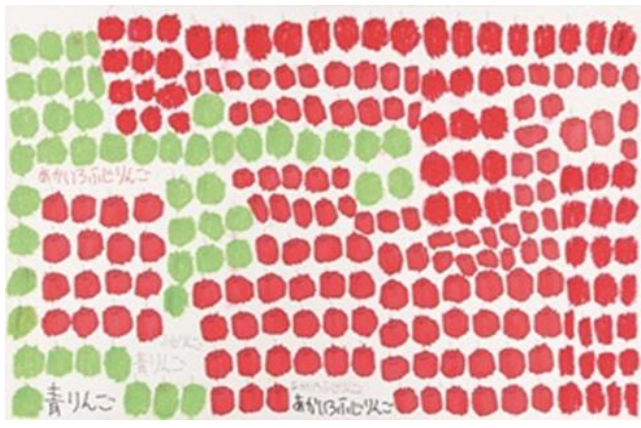
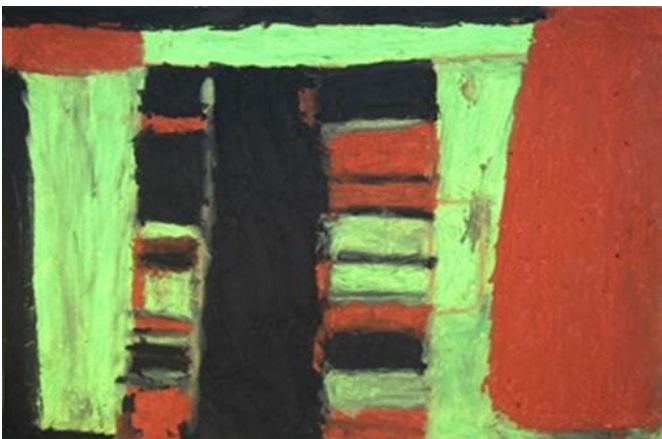
No.(所属毎)	所属施設	画像	作者	タイトル	サイズ縦×横cm	作家紹介文
1	あげお		よしだ ひろゆき 吉田 大将	無題	縦455mm × 横530mm	キャンバス全体に叩きこむように描かれた作品です。その時々 の感情でタッチは変わり、キャンバスに向かってペンを置く ように塗ったり、叩きつけるように描画したり、気分によって表 情が変わります。自己を表現しているかのような力強さと躍動 感を感じる作品です。「描く」という行為までをも表現とし、時間 をかけて制作した今作は、対峙するものを惹きつけ、様々な感情 を呼び起こします。
2	あげお		よしだ ひろゆき 吉田 大将	無題	縦530mm × 横652mm	アクリル絵の具を筆ですくい取り、キャンバス全体に叩きこむ ように描かれた作品です。その時々 の感情でタッチは変わり、キャンバスに向かって筆を置くように塗ったり、叩きつけるよう に描画して飛び散っていたり、気分によって表情が変わります。 自己を表現しているかのような力強さ、圧倒的な質感と躍動感 を感じる作品です。「描く」という行為までをも表現とし、時間 をかけて制作した今作は、対峙するものを惹きつけ、様々な感情 を呼び起こします。
3	あげお		よしだ ひろゆき 吉田 大将	無題	縦380mm × 横455mm	アクリル絵の具を筆ですくい取り、キャンバス全体に叩きこむ ように描かれた作品です。その時々 の感情でタッチは変わり、キャンバスに向かって筆を置くように塗ったり、叩きつけるよう に描画して飛び散っていたり、気分によって表情が変わります。 自己を表現しているかのような力強さ、圧倒的な質感と躍動感 を感じる作品です。「描く」という行為までをも表現とし、時間 をかけて制作した今作は、対峙するものを惹きつけ、様々な感情 を呼び起こします。
4	あげお		よしだ ひろゆき 吉田 大将	無題	縦380mm × 横455mm	アクリル絵の具を筆ですくい取り、キャンバス全体に叩きこむ ように描かれた作品です。その時々 の感情でタッチは変わり、キャンバスに向かって筆を置くように塗ったり、叩きつけるよう に描画して飛び散っていたり、気分によって表情が変わります。 自己を表現しているかのような力強さ、圧倒的な質感と躍動感 を感じる作品です。「描く」という行為までをも表現とし、時間 をかけて制作した今作は、対峙するものを惹きつけ、様々な感情 を呼び起こします。
5	あげお		こみや ふみこ 小宮 史子	カニ	縦380mm × 横540mm	いつも笑顔で周りのみんなを元気づけてくれる小宮さん。絵を 描いているときも「今日は何を描こうかな？」と楽しそうな表情を 浮かべています。生き物を図鑑を見ながら「これにする！」と決 め、本作品を描き上げました。紙いっぱい描く豪快さや、ポップ な描画からは生粋さも感じ取れ、小宮さんそのものを表すよう な、インパクトある作品に仕上がりました。
6	あげお		こすげ ちかこ 小菅 千加子	たんぼぼの綿毛	縦380mm × 横540mm	小菅さんの描く作品は、どれも可愛らしくメルヘンチックな世 界で包まれています。画用紙いっぱいに描かれたたくさんの〇 は、“たんぼぼの綿毛”をイメージしたそうです。風に吹かれ飛 んでいく綿毛を見つけると、春の陽気を感じ、優しい気持ちにな れるのと同じように、この作品も、小菅さんの優しさで溢れてい るように感じます。
7	あげお		こすげ ちかこ 小菅 千加子	たんぼぼの綿毛	縦271mm × 横392mm	自分の手型をとり、その中に好きなものをたくさん詰め込んだ 作品となっています。背景には多くの色を重ねて、色付けして います。多くのモチーフに溢れていながら、色の量や全体のバ ランスにより落ち着いた印象となっています。小菅さんのどの作 品にも共通して汲み取ることでできるかわいらしさは、物静かな 彼女の内面に浮かぶ世界を表したもののなのかもしれません。
8			こすげ ちかこ 小菅 千加子	みーちゃん	縦392mm × 横542mm	明るい色調で彩色された背景に、ちぎり絵で表現された「猫」 が印象的な作品です。中心の黒猫は半年前に天国に旅立った 「みみちゃん」という名の愛猫だそうです。写真を常に身に着 け、とても大切にしています。 クレヨンで描かれたカラフルな背景は、大切な愛猫とのたくさ んの思い出や愛の形を、表現したものなのかもしれません。人 の気持ちの中にある優しい気持ちに寄り添うような、繊細さに溢 れた作品になりました。

9	あげお		もりかわ ともひろ 森川 友博	顔	縦271mm × 横392mm	森川さんはこのモチーフを、幼い頃から繰り返し描き続けています。本人に問うと、上に伸びた線は髪の毛、横の線は耳、黒く塗られた丸は目、その他眉毛・頬・口と自身の顔のパーツを指差しながら教えてくださいました。誰を描いたのか、どのような状況なのかは頼み知ることは出来ません。彼の目から映る私たちの顔はどのような表情を浮かべているのでしょうか。それは彼にしか分かりません。
10	あげお		あさお よしまさ 浅尾 佳成	無題	縦540mm × 横380mm	いつも満面の笑みでグローブを片手に、野球の真似をしたりテレビ観戦を楽しみにしている浅尾さん。野球はもとより大相撲や時代劇、特撮ヒーローと好きなものが沢山あります。大胆な構図と色使いが特徴である浅尾さんの作品の中でも、強い色彩とその表情に引き込まれる作品となっています。
11	あげお		ないとう みひ 内藤 みひ	無題	縦380mm × 横540mm	内藤さんは言葉を発することはありませんが、人と関わるのが好きな方です。アニメを見ること、絵を描くこと、音楽を聴くことが大好きで、楽しいことがあると笑顔で職員のところまで走ってきます。今回の作品は好きな人や動物、キャラクターを用紙いっぱい描き上げました。絵を描く時は自分の描いている物を指さしながら、笑顔で熱心に取り組んでいます。
12	あげお		ないとう みひ 内藤 みひ	無題	縦380mm × 横540mm	内藤さんは言葉を発することはありませんが、人と関わるのが好きな方です。アニメを見ること、絵を描くこと、音楽を聴くことが大好きで、楽しいことがあると笑顔で職員のところまで走ってきます。今回の作品は好きな人や動物、キャラクターを用紙いっぱい描き上げました。絵を描く時は自分の描いている物を指さしながら、笑顔で熱心に取り組んでいます。
13	あげお		しらやま ななえ 白山 七恵	模写	縦380mm × 横540mm	数々の名画の模写に挑んだ作品です。題材はあえてモノトーンで提示しています。鮮やかな色彩やドットやストライプの規則的な模様は、白山さんの感性のみで加筆されています。原画の持つ雰囲気はそのまに、まるで新しい命を吹き込まれたかのような全く違う絵画として生まれ変わりました。絵の細部にまでこだわり、画用紙の隅々どこまでも「白山ワールド」で満ち溢れたこの作品です。
14	あげお		しらやま ななえ 白山 七恵	模写	縦380mm × 横540mm	数々の名画の模写に挑んだ作品です。題材はあえてモノトーンで提示しています。鮮やかな色彩やドットやストライプの規則的な模様は、白山さんの感性のみで加筆されています。原画の持つ雰囲気はそのまに、まるで新しい命を吹き込まれたかのような全く違う絵画として生まれ変わりました。絵の細部にまでこだわり、画用紙の隅々どこまでも「白山ワールド」で満ち溢れたこの作品です。
15	あげお		しらやま ななえ 白山 七恵	模写	縦540mm × 横380mm	数々の名画の模写に挑んだ作品です。題材はあえてモノトーンで提示しています。鮮やかな色彩やドットやストライプの規則的な模様は、白山さんの感性のみで加筆されています。原画の持つ雰囲気はそのまに、まるで新しい命を吹き込まれたかのような全く違う絵画として生まれ変わりました。絵の細部にまでこだわり、画用紙の隅々どこまでも「白山ワールド」で満ち溢れたこの作品です。
16	あげお		しらやま ななえ 白山 七恵	模写	縦542mm × 横392mm	数々の名画の模写に挑んだ作品です。題材はあえてモノトーンで提示しています。鮮やかな色彩やドットやストライプの規則的な模様は、白山さんの感性のみで加筆されています。原画の持つ雰囲気はそのまに、まるで新しい命を吹き込まれたかのような全く違う絵画として生まれ変わりました。絵の細部にまでこだわり、画用紙の隅々どこまでも「白山ワールド」で満ち溢れたこの作品です。
17	あげお		しらやま ななえ 白山 七恵	模写	縦420mm × 横295mm	数々の名画の模写に挑んだ作品です。題材はあえてモノトーンで提示しています。鮮やかな色彩やドットやストライプの規則的な模様は、白山さんの感性のみで加筆されています。原画の持つ雰囲気はそのまに、まるで新しい命を吹き込まれたかのような全く違う絵画として生まれ変わりました。絵の細部にまでこだわり、画用紙の隅々どこまでも「白山ワールド」で満ち溢れたこの作品です。

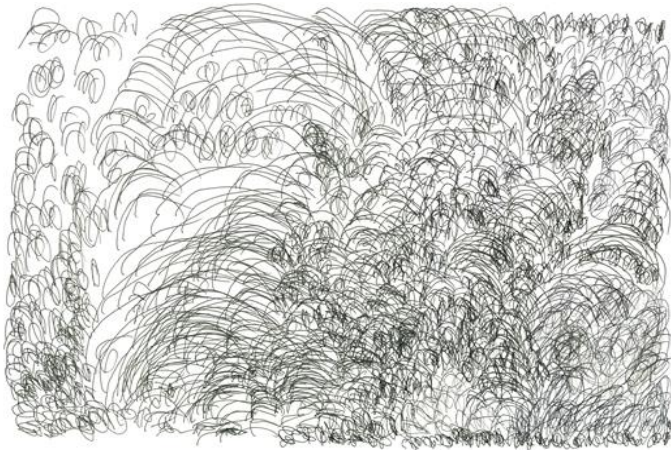
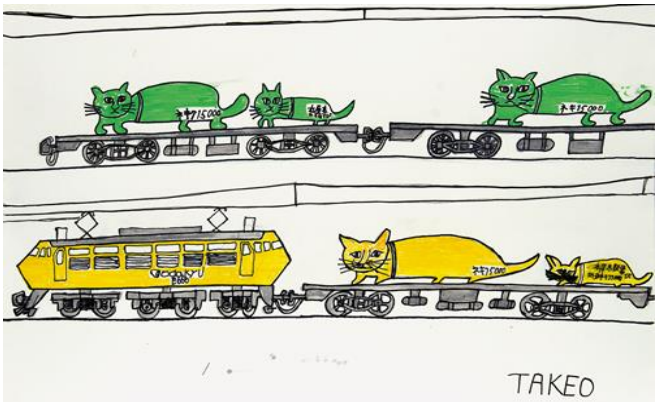
18	あげお		しらやま ななえ 白山 七恵	模写	縦392mm × 横542mm	数々の名画の模写に挑んだ作品です。題材はあえてモノトーンで提示しています。鮮やかな色彩やドットやストライプの規則的な模様は、白山さんの感性のみで加筆されています。原画の持つ雰囲気はそのままに、まるで新しい命を吹き込まれたかのような全く違う絵画として生まれ変わりました。絵の細部にまでこだわり、画用紙の隅々どこまでも「白山ワールド」で満ち溢れたこの作品です。
19	あげお		むかさ ふじ 武笠 ふじ	無題	縦455mm × 横530mm	楽しみながら描画することにおいて、武笠さんを超える人はいません。目を輝かせ、どんな画材にも臆することなく、深く軽やかに挑みます。自ら選んだ画材(アクリル絵の具)を筆に付け、8本の平行線をキャンバスに描きました。力強く、あるいは儚さも感じるような作品に仕上がりました。
20	あげお		やなぎ まきこ 柳 万喜子	無題	縦318mm × 横410mm	余白があれば、どんな紙にも丸を描き始める柳さん。時には激しく書き殴るように、時には優しく柔らかく、何時間でも没頭して描き続けます。普段はペンを好む柳さんですが、今回はアクリル絵具に挑戦しました。筆ではなく自身の“指”を用い、リズムカルに紙一面へと丸は描かれ、自分の想いをキャンバスに乗せて表すよう次々と重ねられます。色の世界に誘われるようなこの作品。ぜひ、作者の感情を読み取りながらご覧になってください。
21	あげお		やなぎ まきこ 柳 万喜子	無題	縦297mm × 横420mm	余白があれば、どんな紙にも丸を描き始める柳さん。時には激しく書き殴るように、時には優しく柔らかく、何時間でも没頭して描き続けます。普段はペンを好む柳さんですが、今回はアクリル絵具に挑戦しました。筆ではなく自身の“指”を用い、リズムカルに紙一面へと丸は描かれ、自分の想いをキャンバスに乗せて表すよう次々と重ねられます。色の世界に誘われるようなこの作品。ぜひ、作者の感情を読み取りながらご覧になってください。
22	あげお		たかはし ゆうすけ 高橋 裕介	無題	縦210mm × 横270mm	延々と続く格子状の模様。格子状のモチーフは対画材に留まらず、衣類や空間、自らの体にも描き続けます。描いているときのリズムや指の動きが、きっと彼にとっては心地よく、好ましいものなのでしょう。
23	あげお		さかぐち たけしげ 坂口 武繁	無題	縦210mm × 横297mm	毎日、朝も夜も何時間も机に向かい、描いては捨てを繰り返す坂口さん。見取り図にも、案内板にも、街の地図にも見えるこの作品には一体どんな思いが込められているのでしょうか。中央に佇む「彼」に話かければ何かわかるかもしれません。
24	あげお		たかはし ゆう 高橋 裕	無題	縦380mm × 横455mm	椅子やコップの位置が少しでもずれたなら、何度も、何度も、微調整しながら、とても丁寧に直します。彼の丁寧さは作画にも表れ、好む「青色」の色鉛筆で、何度も、何度も、塗り重ねて、濃淡のある作品が生まれました。
25	あげお		おおはし まりこ 大橋 まり子	おたまじゃくし	縦392mm × 横542mm	表現活動を始めた当初は、絵を描くことに苦手意識を持っていた彼女ですが、活動の中で興味を持ち、様々な絵を描き始めました。そのユニークな絵は、毎日書いている日記に挿絵をして描いていたものが基になっていることが多く、同じモチーフを繰り返し、カラフルな色で描き上げました。独特なタッチから生まれる可愛らしさや面白さはとても好評を得ており、ご本人も描くことに自信を持ち、楽しみも見出しています。
1	おれんじ		石井健知 (いしいけんじゅ)	アルミ要塞	20CM ×奥行15CM ×高さ30CM	生活介護事業所に毎日通う20代の男性です。自分の中でストーリーを作りながら作品を作っています。作って壊し、作っては壊しを繰り返しながら制作しています。材質は缶ジュースのプルトップでホットボンドでつないでいます。

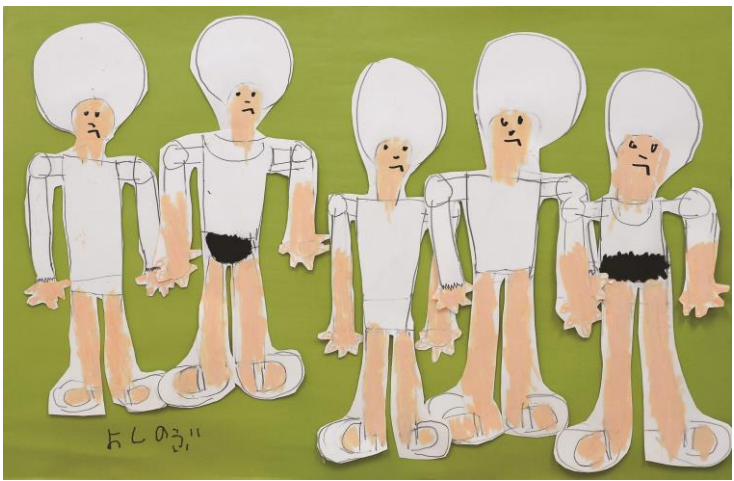
2	おれんじ		石井陸渡 (いしい りくと)	アムホーフ教会	横55CM 縦38CM	高校在学中は絵を描くことは全くありませんでした。生活介護事業所に通うようになり、その中の創作活動の時間で絵を描き始めて12年、主に建物や風景の絵を描くことが好きで、建物の写真集を見て、自分で描きたいものを選んで描いています。写真があればリクエストに応じて描くことができます。このほかにもウィーンの街並みや川越などを描いた作品がたくさんあります。
3	おれんじ		妹尾智之 (せのお ともゆき)	無題	よこ60cm たて42cm	知的障害があり言語を持たない彼ですが、仕草やアイコンタクトを通じてコミュニケーションをとっています。彼の本当の気持ちを知る一つの手段がこの表現活動だと考え取り組んできました。その日によって選ぶ色が、描き方が違います。1〜2色で終わりにしてしまうときもあれば、たくさんの色を何度も何度も重ねて描くときもあります。色が混ざると暗い色になってしまうがちですが、なぜか妹尾さんの 作品は暗い色になってしまうことがないことに驚いています。
4	おれんじ		荻原徹 (おぎわら とおる)	無題	よこ60cm たて42cm	人と話すこと関わるのが大好きな方ですが、知的障害に加え構音障害があり自分の伝えたいことがなかなか伝わらないというもどかしさを抱えながら日々生活しています。自分の想いが伝わった時の笑顔は本当にキラキラしています。
5	おれんじ		シュウシュウ	無題	よこ60cm たて42cm	とても優しく、ゆったりした方で根気強い性格です。そんなシュウシュウさんだからこそこの作品がこの貼り絵です。2〜3cm四方に切った折り紙を、ご本人が指でさらに小さくちぎって1枚1枚張っていきます。大きな作品になると6カ月くらいかかることもあります。
6	おれんじ		中村愛之助 (なかむら あいのすけ)	電車	よこ60cm たて42cm	電車が大好きで時々家族と一緒に電車を見に行ったり、乗りに行きます。彼自身は連結部分が大好きだそうです。彼の描く電車は、とてもメルヘンチックですが、全て実際に走っている電車で、窓の数、ドアの数、車輪、パンダグラフの数に至るまですべて本物と同じです。電車が大好きな中村さんだからこそこの世界観です。
7	おれんじ		丸谷祥悟 (まるたに しょうご)	昇仙峡	よこ60cm たて42cm	丸谷さんは自閉症の男性です。丸谷さんの作品は記号化されていたり、図式化されています。おそらく彼が見ている世界ではこのように見えているのではないのでしょうか。創作を通じて彼の内面世界を少し知ることができました。
8	おれんじ		安田英明 (やすだ ひであき)	無題	よこ60cm たて42cm	安田さんは毎日通っている施設では「キャプテン」というあだ名があります。あだ名の由来はもちろんみんなに優しく公平でキャプテンシーがあるからです。12年間安田さんと創作活動に取り組んできて、彼の作品は彼の頭の中のことが描かれているのではないかと感じています。頭の中にあるきになるあれこれを作品にしているようです。この作品は鉛筆で黒一色ですが、カラフルな色を使った作品もあります。
1	工房集		高谷こずえ	潮干狩り	38 × 54	よくしゃべる・・・よく笑う・・・でも常に手が動いている。小さく切った折り紙を、丁寧に1枚ずつ貼り合わせる。平面でも立体でも、彼女にかかったらあっという間に、キラキラとして存在感のある作品になる。

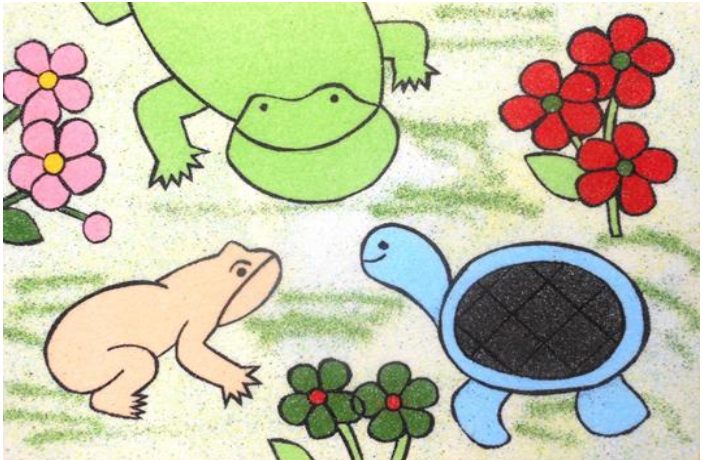
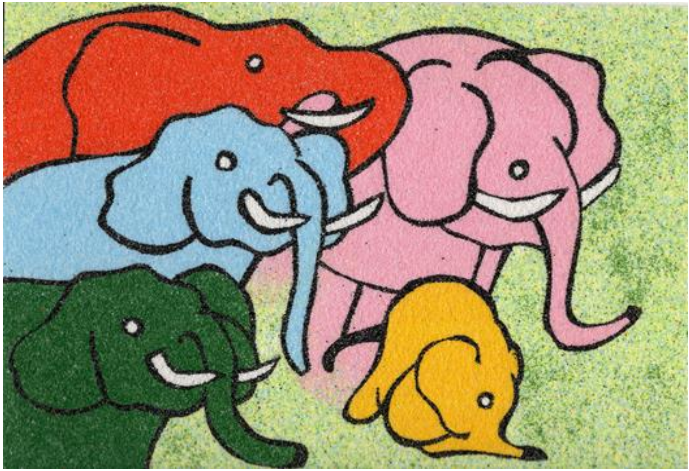
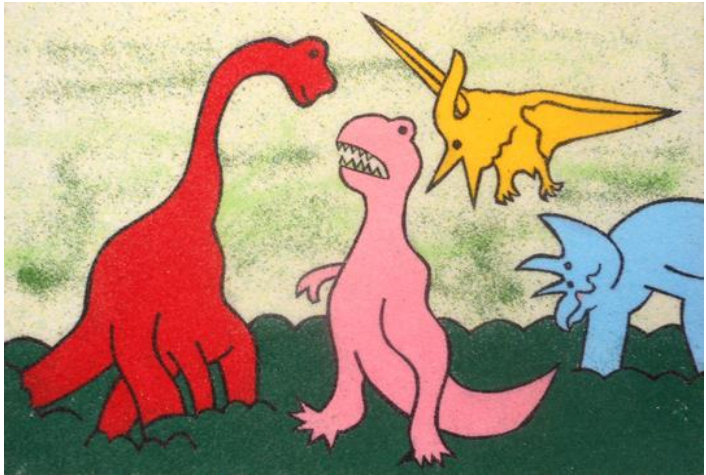
2	工房集		高谷こずえ	江崎グリコ	38×54	-
3	工房集		横山明子	ピンクレディ・ミーちゃんのヘアバンド	38×54	入所当初は人との関わりや下請け作業の仕事をとにかく拒否していたが、「絵描いてくれる？」だけには喜んで応じてくれた。今でも毎日自分の好きなモチーフを描き続けている。
4	工房集		横山明子	コスモス	38×54	-
5	工房集		佐々木省伍	蝶の標本箱	38×54	絵を描くことが大好きで、日中活動だけでなく自分の部屋に戻っても絵を描いている。描きはじめると無口でとても集中している。一日に何枚も描いていることもあり、その数に圧倒される。
6	工房集		佐々木省伍	無題	38×54	-
7	工房集		佐々木省伍	箱	38×54	-
8	工房集		田中悠紀	茶太郎	38×54	かつて施設で飼っていた犬の「茶太郎」を2000年ごろから描き続けている。悠紀さんの描く茶太郎はみんな笑顔で、悠紀さんが幸せに暮らしていることが伝わってくるよう。
9	工房集		田中悠紀	茶太郎	38×54	-
10	工房集		白田直紀	おでん	38×54	画像を見ながら描くが、決してそのものではない。細かいペン先を何回も往復させ、独特な色彩を出す。豪らしくもあり、それでいて不気味さもある彼の世界がある。

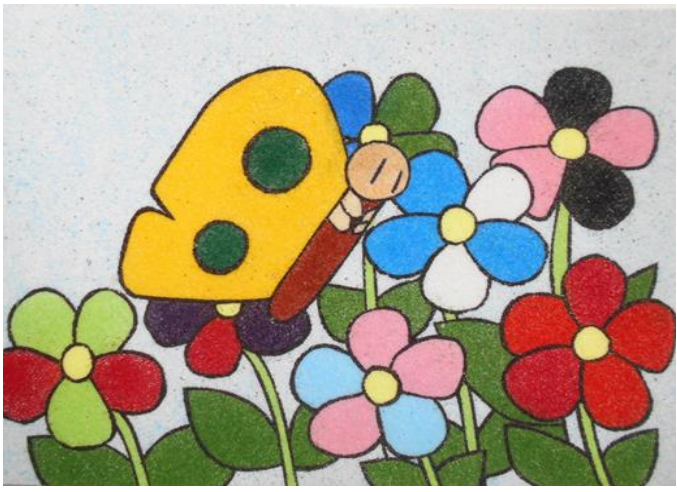
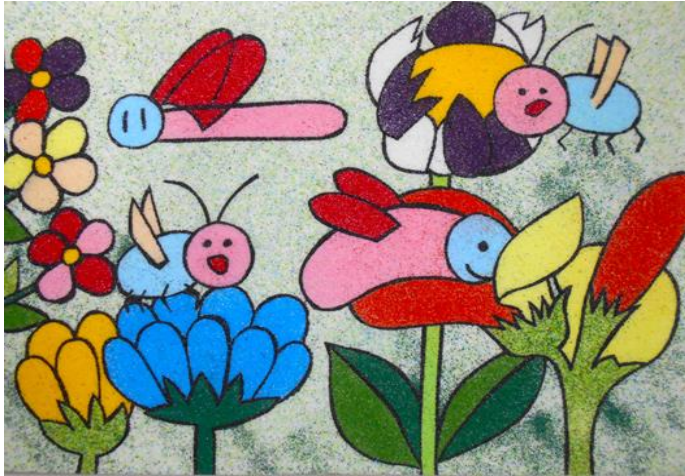
11	工房集		白田直紀	ラフレシア	38×54	-
12	工房集		阿部美幸	チューリップと相合傘	38×54	カラーのボールペンで好きなアイドルの名前や気に入ったキャラクターを相合傘とともに描く。そして色鉛筆で上から塗りつぶす。アパレル業者とのコラボで洋服のデザインとしてコラボ商品も誕生している。
13	工房集		阿部美幸	チューリップと相合傘	38×54	-
14	工房集		大倉史子	梅	38×54	好きなモチーフを画用紙いっぱい書き並べる。自分の描きたい時に、描きたい場所で、描きたいモチーフを描く。洋服にも自分で絵を描いたり、刺繍をしたり、身近にあるものを使って何でもアートにしてみよう。
15	工房集		大倉史子	青りんご 赤りんご	38×54	-
16	工房集		前田貴	映画館	38×54	旅行などのパンフレットの写真から気に入ったものを選んで、思い描いた形を紙に描いていく。モチーフはバラバラに解体され再構築される。作品を見る人との間に出来た謎解きも彼の楽しみ。
17	工房集		前田貴	紅葉	38×54	-
18	工房集		三角賢治	花	38×54	花をモチーフにした絵画を描く。クレヨンと水彩を使って勢いよく描いていく。手についたクレヨンが気になった様で、指についたクレヨンを押し付けた跡も作品の一部となっている。
19	工房集		三角賢治	花	38×54	-

20	工房集		山崎利之	ゾウとキリン	38×54	動物が好きで、中でもパンダが大好き。紙にパンダなどの動物を描き、丁寧に切り取り、同じ色同士を貼り合わせていく。パンダの白い部分もきちんと白色のペンを使って色付けしている。
21	工房集		矢島綾乃	無題	38×54	音楽に合わせて体を動かすことが大好きだが、貼り絵をする時は、とても集中して楽しそうに行っている。その時の気分の折り紙を選び、時々暗い色を選ぶ時も。器用にハサミを使い、切る形にもこだわっている。
22	工房集		土屋莉恵	ひまわり	38×54	クレヨンやマジックを使ってその時の気分で道具を使い分けて描いている。気持ちのおもむくままに筆を走らせ、完成した絵から発想された言葉をタイトルにする。
23	工房集		合津はるか	無題	38×54	クレヨンを画用紙の上で豪快に動かして元気な絵を描くかと思えば、碎いたクレヨンを手で伸ばして、花火の様な繊細な絵を描いたり。ちぎった紙を何枚も何枚も重ねて貼り、重厚なちぎり絵を仕上げたりする。
24	工房集		黒川幸司郎	川口太陽の家	38×54	カッティングシートを丸や四角に切り、紙に貼っていく。道具を使うことが大好きで、専用のハサミやバケツを使用。カッティングシートが幾重にも重なりと立体的で、黒川さんの世界が広がっていく。
25	工房集		岩井美和子	いろんなどうぶつ	38×54	自分の描きたいものを探して黙々と書き続ける。悩んで悩んで今のスタイルにたどり着いた。完成した時のうれしそうな笑顔が印象的で、彼女の自信に繋がっている。
26	工房集		西田真緒	無題	38×54	画用紙に直接、好きな色の絵具をたっぶりのせて、そこから刷毛やローラーを使い、勢いよく描き始める。ピンクやオレンジの鮮やかな蛍光色が最近のお気に入り、画材には掃除ブラシや化粧のチークを使うことも。
27	工房集		箭内裕樹	無題	38×54	太さが違うボールペンを使い分け、四角の箱を幾つも描いていく。その箱の中にハートやマル、似顔絵を描き込んでいき、最後に上下、斜めと力強く自分の気持ちを思いっきりぶつけるかのように塗りつぶしていく。
28	工房集		納田裕加	もりの中のゆうえんち	38×54	人を笑わせたり、楽しませたりするのが大好き。絵の中にはたくさんさんの顔やキャラクターが並んでいて、作品を描きながら、みんなを楽しませるタイトルを考えている。

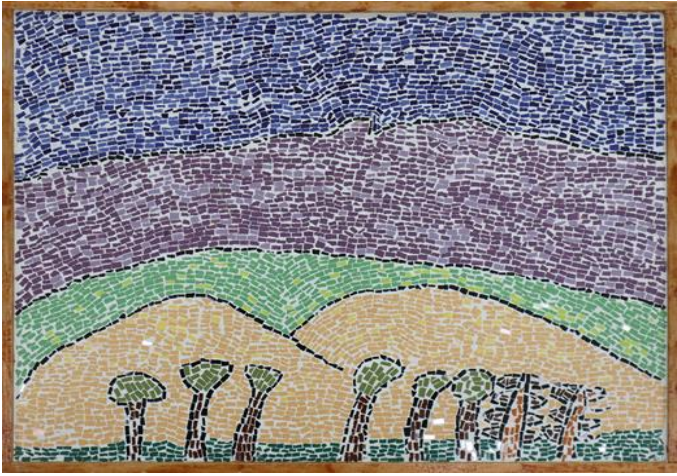
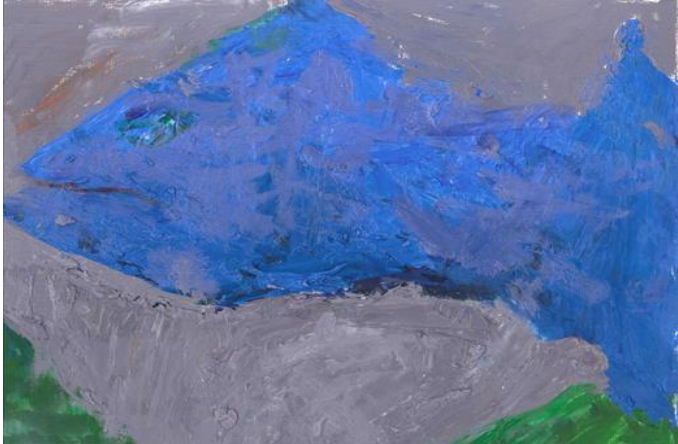
1	たいむ共生会		林良樹 (はやしよしき)	ヤギ	タテ38cm × ヨコ54cm	動物が好きで主に写真に撮った動物の絵を描いています。特にヤギが好きです。マッキーペンを使い独特の色味で表現し、背景はストライプで仕上げるのが特徴です。
1	戸田わかくさ会		五十嵐琉斗 (いがらしりゅうと)	無題	A3 (縦29.7cm × 横42.0cm)	もともと施設の玄関に置いてある来客者名簿にドローイングをしてしまう癖があったのですが、その名簿は個人情報保護のため作品として発表できず、代わりに画用紙を提供したらこのような作品が生まれました。
2	戸田わかくさ会		長澤章 (ながさわあきら)	無題	A3 (縦29.7cm × 横42.0cm)	長澤さんは好きな色を自由に塗ります。自分の作品について語ることはありません。何をイメージしているのか。どうしてこの色を選んだのか。分からないことは多いですが、長澤さんとはときどき笑顔を見せます。
1	光の園		永井健雄	ポーランドの街並み	55.5 × 71	美術にかける情熱は誰よりも熱く、そして奇想天外！！ご自身の中で大好きなアイディアたちが融合して、絶妙なバランスで表現されています。その作品一つ一つに愛情が詰まっており、説明を聞くともっとその世界観に引き込まれます。
2	光の園		永井健雄	猫電車	44 × 61.5	
3	光の園		永井健雄	猫と車	44 × 61.5	
4	光の園		恩田貴弘	ひまわり	54 × 61.5	本人の人柄そのものの作風で、とにかく優しい！そして、透明感やフワフワしたような繊細さや柔らかさの中にお茶目な可愛さがある。そういった内面が一つ一つの作品に溢れているのを感じていただけたら幸いです。 販売済 画像使用可能
5	光の園		恩田貴弘	椿	54 × 61.5	
6	光の園		恩田貴弘	春の花	54 × 61.5	

7	光の園		高橋典光	鳥	61.5 × 86	まさに芸術家タイプの表現力と発想力！唯一無二の作品の根源は、ご本人の中の好きな事や興味のあることをとことん追求する探究心にあるのではないかと思います。これだ！と、ひらめくと細部まで極めていく作風をご覧ください。
8	光の園		高橋典光	ひまわり	61.5 × 86	
9	光の園		坂庭儀信	5人の女子小学生	61.5 × 86	飽くなき探究心や情熱というのか、それとも恋心なのか。常に理想を追い求める姿は神々しさも感じるほど、情熱的に打ち込む姿が芸術と言っても過言ではありません。
10	光の園		坂庭儀信	5人の女子小学生	60 × 78	
11	光の園		青木紀史	無題	35 × 65	ケラケラと笑いながら天真爛漫に楽しんで作品を仕上げている姿は、まるで天使のように素敵で笑顔に引き込まれます。そんな天使も普段は飄々とした様子で、俺はやらねーぜ！みたいなクールなんです。
12	光の園		小田中浩美	ジャンボ袖子	42.5 × 77.5	作品制作では妥協せずに長期間をかけて納得のいく作品をいつも作られています。特に布とフェルトを使った作品では一針一針丁寧に取り組まれ、自分の中のイメージを表現されています。
13	光の園		小田中浩美	ぼたんとチューリップ	67 × 60	
14	光の園		小田中浩美	海の生き物	73 × 56	
15	光の園		小田中浩美	ポーランドの街並み	55.5 × 71	

16	光の園		小田中浩美	ピンクの花たち	59.5 × 47.5	販売済 画像使用可能
17	光の園		小田中浩美	ジャンボ柚子	52 × 67.5	
18	光の園		田中珠美	貝	120 × 40	次はあれを描きたい！！絵を描くことが大好きで、何でも田中さんらしいタッチで描いてくれます。納得がいかないと書き直したり、どの色にしようかと悩みながらもこだわりを持って一つひとつ作品を書いています。
19	光の園		田中珠美	生物	30 × 45	
20	光の園		SHIORI	春の花	61.5 × 86	目で見たものを一瞬で自分のイメージに！！絵や文字を一気に一筆書きする姿は、息を呑むほどです。描いている時の集中力、表情は普段の穏やかな表情からは想像できません。
21	光の園		SHIORI	3匹の生き物	27 × 38	
22	光の園		SHIORI		27 × 38	
23	光の園		SHIORI		27 × 38	
24	光の園		SHIORI		27 × 38	

25	光の園		SHIORI		27 × 38	
26	光の園		SHIORI		27 × 38	
27	光の園		SHIORI		27 × 38	
28	光の園		SHIORI		27 × 38	
29	光の園		SHIORI		27 × 38	
30	光の園		SHIORI		27 × 38	
31	光の園		SHIORI		27 × 38	
32	光の園		SHIORI	くじら	27 × 38	
33	光の園		SHIORI	魚	27 × 38	

34	光の園		SHIORI	動物ナチ	27 × 38	
35	光の園		藤岡咲貴	おひな様	50 × 90	美術の創作の時間が大好きでとても創作意欲に溢れています。作業中は真剣そのものですが完成した作品を見ると素敵な笑顔を見せて下さいます。またステンドグラスやハンダ付け、発泡スチロールで作る動物など様々な作品に挑戦され、今後も生まれる作品が楽しみです！
36	光の園		藤岡咲貴	コラージュ	55 × 62	
37	光の園		藤岡咲貴	春の花	50 × 90	販売済 画像使用可能
38	光の園		藤岡咲貴	切って貼って笑って	54 × 76.5	
39	光の園		藤岡咲貴	無題	74 × 54	
40	光の園		藤岡咲貴	夕方の日	45 × 58	
1	嵐山郷		鎌田 健勇 (かまた けんゆう)	滝	縦45cm × 横60cm	鎌田さんは細かくカットされたタイルを丁寧に並べ、長い時間を掛けて作品を作り上げています。風景画が多く、どの作品も隅まで密度の高い画面構成がなされ、照明のライトが当たると作品全体が輝いているように見えます。

2	嵐山郷		鎌田 健勇 (かまた けんゆう)	朝やけ	縦45cm × 横60cm	鎌田さんは細かくカットされたタイルを丁寧に並べ、長い時間を掛けて作品を作り上げています。風景画が多く、どの作品も隅まで密度の高い画面構成がなされ、照明のライトが当たると作品全体が輝いているように見えます。
3	嵐山郷		神谷 一郎 (かみや いちろう)	さかな	縦30cm × 横38cm	神谷さんは色彩豊かな生き物をモチーフに、アルコールマーカーや水彩絵具、油彩などで色を塗り重ねて作品づくりをしています。一つのテーマを何度も繰り返して描いており、近年のお気に入りには“鳥”と“魚”の2つです。
4	嵐山郷		神谷 一郎 (かみや いちろう)	南国の鳥	縦54cm × 横39cm	神谷さんは色彩豊かな生き物をモチーフに、アルコールマーカーや水彩絵具、油彩などで色を塗り重ねて作品づくりをしています。一つのテーマを何度も繰り返して描いており、近年のお気に入りには“鳥”と“魚”の2つです。